

「桜は田の神が宿る木」

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司

南那須町八ヶ代の大桜、大田原市両郷磯上の山桜等のヤマザクラ、宇都宮市内では慈光寺のエドヒガン等がある。

三月下旬ともなると各地から桜の開花宣言がメディアを賑わす。今や桜の開花は、国民的関心ごとであり、日本人の桜に対する思いの深さを改めて知る。

桜のサとは、サオトメ(早乙女)、サツキ(五月)、サナエ(早苗)などのサと同じで、田の神を意味するとされ、クラは座であり居場所を示す。桜とは、田の神が宿る木を指したものである。

日本には現在、自生種とそれより生み出された園芸品種をあ

わせて二百数十種があるといわれ、前者を山桜、後者を里桜として区別している。田の神が宿るとされた、桜は、本来山桜である。

孝子桜



戸室山の山桜



日本国内で見られる山桜には一〇種あるといわれるが、栃木県では、ヤマザクラやオオヤマザクラ、エドヒガン等が多い。そのうち最も多く見られるのがヤマザクラであり、宇都宮周辺の里山でもよく見られる。ヤマザクラは、明るい環境を好む。薪や炭の原木や堆肥の原料となる落ち葉を取得するために、管理されてきたコナラやクヌギ等の二次林が、ヤマザクラの生育しやすい場所となる。一方、花が鑑賞の対象として人工的に植栽されたヤマザクラも多い。野沢町の「静桜」は、ヤマザクラの変種で、江戸時代日光社参の人々にも知られた。

ヤマザクラやオオヤマザクラ、エドヒガン等は、山桜の仲間では寿命が長く、巨木になり、各地で名木となっている物が少なくない。

南那須町八ヶ代の大桜、大田原市両郷磯上の山桜等のヤマザクラ、宇都宮市内では慈光寺のエドヒガンでは、その栽培品種である枝垂れ桜が知られる。枝垂れ桜は、エドヒガン特有の巨木となり、その上長寿の木である。また、枝垂れるその姿が優美でもあり、これまた名木とされることが多い。城西西小学校にある孝子桜、東戸祭の祥雲寺境内の桜は、宇都宮を代表する枝垂れ桜である。

冬枯れの樹林の中に、花を咲かせる山桜は、人目につきやすい。中でもひとときわたい山桜は、より目立つことから「種まき桜」等と呼ばれ田仕事の苗代しめの目安とされた。桜に田の神が宿るといふ信仰を生み出したゆえんであろう。

山桜の代表格であるヤマザクラは、花が咲くときに赤い若葉が広がるのでやや華やかさに欠ける。このヤマザクラに代わって今日の桜の概念を生み出したのが、江戸時代の終わりに生み出された「染井吉野」である。ソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラの交雑種で、淡紅色の花が一斉に咲き始めるので華やかである。しかも成長が早く、接木によって増殖される。こうしたことから花見の対象として好まれ、たちまち全国各地の公園等に植栽された。

一方、ソメイヨシノは、一斉に花を散らすことから「花は桜木、人は武士」といわれ、潔さを象徴する花ともされた。宇都宮市内に桜通りがあるが、その名は、明治期に第十四師団の移駐に伴い開削された道路に、軍人を鼓舞するためにソメイヨシノが植えられたことによる。このようにソメイヨシノは、軍国主義の中でもてはやされ、太平洋戦争末期には、死の美学と結びつき、多くの若人を死に追いやった。

今年も花見の季節がやってくる。世相に反映されず、みんなが心から愛でる花であってほしい。



野沢町の静桜



野沢町の静桜